

ウィルス禍の社会

2020年12月14日

内閣府「選択する未来2.0」16回オンライン会議

村上 陽一郎

新興感染症とウィルス

SARS Severe Acute Respiratory Syndrome 2003年

RNA系コロナ・ウィルス 飛沫感染、エアゾル感染

被害国 三十か国以上 患者総数 8,500 死者 920

致死率 11パーセント (人獣共通感染症)

ワクチンは未開発 ゲノム変異はRNA系としては少

MERS Middle East Respiratory Syndrome 2012年

RNA系コロナ・ウィルス ヒト-ヒト感染は？

韓国 患者 186 死者 36 致死率 20%

中国 患者 2,500 死者 860 致死率 30%

WHO 事務局長 Margaret Chan (Hong Kong) 2013年 警告！

2009年の新型FlueをPHEICと宣言 空振り

(Public Health Emergency of International Concern)

COVID-19 判っていること

分子解析の結果

SARS 祖先は共通 しかし遠い

MERSとは さらに遠い

感染は 水平感染 (飛沫 及び エアロゾル)

発見率が最も高いのは 喀痰 唾液 鼻汁

但し 消化器系でも 便 僅かだが 尿

致死率 地域によって 一定しない

だが 感染率は 極めて高く 致死率は ほどほど

ウィルス戦略としては 極めて巧妙

判っていることは少ない

しかし それでも これだけの規模の流行を前に
政治は 中央も 地方も 対策を講じなければならない

COVID-19に関して 各国が講じた対策の評価は
決定的なものは 何もない
高々 利と失とのバランスの 多少の傾き

それは 当然で 正解など見つかる状況にないからだ

政策の問題

一つの例

スウェーデン 集団免疫を目指す??

パンデミックの前に 高齢者収容施設でのトリアージが
緊急・窮迫時には

80歳以上は ICUでの治療は 控える

70歳以上は 基礎疾患が一つ以上で 同上

60歳以上は 基礎疾患が二つ以上で 同上

確かに 同国での高齢者収容施設での死者数は 際立つ

国・民族の（医療に関する）歴史的・文化的・・・諸要素

10年前の国際調査では 国民の75パーセントが 国の医療状況に
十分な信頼を置いている（日本は25パーセント）

正解のない状況での判断

帚木蓬生

『ネガティブ・ケイパビリティ——

答えの出ない事態に耐える力』 朝日新聞出版

ベスト・ユニークなソリューションを探すことを諦める
常に<ベター>な答を探して 少しずつ前進する

機能的寛容 (functional tolerance)

機能的寛容

寛容は 通常はジョン・ロックに代表される 宗教的寛容

それも大事だが

人間自身に備わっているはずの 特性としての寛容

人間が認識する世界は 通常 自然言語の枠組みに

イヌイットの雪言語 日本語の色言語 (藍色)

しかし その枠組みから外み出すだけの

余裕・ゆとり が確かにある

他者理解の原点 <alternative> (もっと他のようである)

<もっと他のようである>ことへの開き

ベストではなく ベターを追求することのメリット
常に<alternative>への開きを可能にするための
自由さ ゆとり 余裕 が保証される

ロバート・フロスト

<The road not taken>

日本の為政者へ

言質を取られることに留意する余り

「しっかり」と「万全を期す」のクリシェを

官僚の作文の前後に付け加えるだけの発言から脱却してほしい

(万全など期せるはずがない、今ベターと思えることをするほかはない)

もっとも反対党も 真っ当な議論ではなく 一言隻句を捉えて

居丈高に攻めまくるだけ という習慣から脱却してほしいが

現在の状況で とにかく <ベター>と信じられる方向へ 舵を切っている

しかし <モア・ベター> (英語では誤だが) なものがあるかもしれない

一緒に探していこう

そんなメッセージが欲しい